

HP-PRRS(強毒性 PRRS 株)の脅威

イギリスの種豚会社 APMC 社の社長、ステファン・カーティス氏は、中国・東南アジアで依然頻発している強毒性 PRRS 株への感染リスクを切々と訴えている。彼によると「カンボジアで初めて遭遇した HP-PRRS は、・・・母豚での死亡率は実に 20～30%、死産も 100%に達する勢いであり、妊娠豚は 80%が流産、生まれた子豚も 100%近い死亡と想像を絶するものである。雄豚は死ぬことはないものの授精能力がなくなり、長期にわたり使用不可能になる。最終的に 6 ヶ月間は全く生産がゼロとなっている。もしもイギリスに侵入すれば壊滅的な状態になるだろう」と危機感をあらわにしている。国境を越えてのバイオセキュリティこそが問題で、これらの東南アジア諸国へ現在種豚を輸出しているデンマークやベルギーがまず危険だとして、婉曲的に中止を訴えている。

(The Pig Site. 2010.1.25 参照)

2010 年 2 月 グローバルピッグファーム(株)